

平成30年度 児湯るびなす支援学校 学校評価のまとめ（職員、保護者、学校評議委員・学校関係者評価委員）

学校目標		主体的・積極的な自立や社会参加の基礎となる「生きる力」を培い、豊かな人間関係を築くことができる心身共に調和のとれた人間の育成を図る。			評価区分 4：期待以上である 3：ほぼ期待どおりである 2：やや期待を下回る 1：改善を要する		
経営ビジョン		「スマイル るびなす」のもと、児童生徒の「輝く瞳 はじける笑顔」を大切にし、児童生徒が共生社会の一員としてそれぞれに自分らしく「自立すること」を目標に、「きめ細かく」「寄り添い」「支えあい」「安心」「安らぎ」、そして「つなぐ」を合言葉に、保護者・地域から信頼される笑顔いっぱい活き活きある学校づくりを進める。					
項目	重点目標	自己評価結果		学校の自己評価(主な成果・課題等)	学校評議委員・学校関係者評価委員の評価		今後の改善策
		職員	保護者		評価結果	感想並びに提言等	
重点目標1	児童・生徒にとって魅力(充実感)ある学校づくり	個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づいた教育をを実践することで、小中高一貫性のある教育に努める。	3.3	3.5	本年度は個別の指導計画を活用しやすい形式に改善した。年度当初に保護者と連携して作成し、実践にいかした。また、家庭訪問や懇談等で定期的に報告・確認し、3学期に評価を行い、次年度へとつなげた。個別の支援計画も保護者や関係機関と連携して作成し、支援体制の確立に努めた。さらに、定期的に支援会議を行い連携に努めた。今後も根拠に基づいた教育の実践に努めたい。	3.4	【重点目標1】子供たちがいきいきと活動している取り組みが、行事や新聞で拝見できた。特に地域の学校との活動は、相手の学校においても心の教育につながっている。 ・先生方の子供の実態に合わせた指導、子どもに向き合う姿勢がとても素晴らしい。 ・校内にとどまらず、校外学習として地域でのイベント等に参加する事は、周りへの障がい理解や子供たちの経験としてとても意味あることだと思います。今後ますます子どもが活躍できる場を見つけていって下さい。 【重点目標2】 ・アンケート結果を見ると、職員より保護者の方が評価が高いのは、保護者が友好的に学校を見ているのであろう。専門性の向上に努めていることが結果としてつながっているであろう。一貫した教育に努めてほしい。 ・職員のきめ細かい対応に感謝している。合理的配慮に関して保護者の要求が強い場合は、学校としての立場をしっかりと保護者へ伝えても良いと思う。 【重点目標3】 ・新富町自立支援協議会等に参加し、小学校入学前の保護者に対する発達障害についての講話、発達相談等、センター的機能を果たしていると思います。 ・るびなす支援学校の認知度は年々高まっていると思います。今後とも地域との関わりが深まる取組と一緒に考え実践していただければ嬉しいです。 ・福祉施設では、施設側に反対意見を伝えてしまうと行くところなくなることに怖さを感じている保護者もいる。 【重点目標4】 ・体育館への渡り廊下の修繕について詳しく知りたい。 ・学校内の改修を急がないといけないところは急いで行わなければならない。例えば、微力ではあるが本校とのコラボ商品であるるびゼリーの収入などの販売収入を寄付するなど、協力できることをしていきたい。 ・スクールバスに関して今後の見通しについてお聞きしたい。 ・学校の環境整備は、予算の関係上、一気に解決できるものではないと思います。優先順位を整理して、計画的に県に要望して頂けたらと思います。 ・職場環境の改善について情報機器等の視覚ツールを有効に活用してはどうか。朝礼等で職員口頭で伝達する際に誤解も多い。グループセッション等を有効活用して欲しい。 【その他】 ・小学部職員からの会議等の多さの不満が気になる。郵便局でも同じであるが、「～の資料を～までに見ておく」を踏まえた上で会議に臨むという方法も考えられる。お金のかからない職場改革を努力してはどうか。 ・会議の効率化や業務の改善など県の社会福祉協議会に講師としての良い人材がいるのではないかと。 ・スマートフォン、ipadについては、その使い方の教育も必要であるが、施設でも依存症になる利用者もいる。在学中から使用時間の制限や使い方の指導に力を入れてほしい。
		一人一人の児童生徒の良いところを認め成長させることで、学校が「楽しい学び」の場となる教育に努める。	3.4	3.6	小学部は富田小・新田学園、中学部は富田中との学校間交流や地域での居住地校交流、高等部は高鍋高校と高総文祭に向けての合同の合唱練習や合同発表を通し、同世代との楽しく交流を深めることができた。また、地域の講師によるものづくり体験や太鼓の学習、みかん狩り等の体験学習、こゆ朝市での販売学習、日向新富駅や新富郵便局等での清掃活動により、地域と関わながら主体的で楽しい学びにつなげることができた。	3.6	
		小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の推進を図る。	3.2	3.5	キャリア教育全体計画に基づいて、各学部の目標達成に向けて全職員で意識して取り組んだ。具体的には、小学部は日常生活の指導等、中学部高等部は作業学習等を中心に全教育活動につながるよう取り組んだ。特に中学部、高等部は年2回の職場体験学習、現場実習を実施し、キャリア教育の推進に努めた。今後も将来の自立、社会参加を目標にした、小中高一貫したキャリア教育の推進に努めたい。	3.4	
重点目標2	多様な児童生徒のニーズに対応する専門性の向上	校内研修の充実に努める。	3.3	3.7	本年度は、「一人一人の個性が輝く創意あふれる教育の実現に向けて」を教育課題研究のテーマにPDCAサイクルを意識した授業の改善に取り組んだ。また、本年度は小中学部は県教育委員会の学校訪問があり研究授業を行い、授業の改善資質の向上に努めた。さらに、専門性の向上に向けて、本校職員だけでなく、外部講師も招き、発達、ICT機器、教育課程等の内容を中心に校内研修を行い、職員のニーズに応じた研修の充実に努めた。	3.6	【重点目標3】 ・人権教育に関しては、児童生徒の主体的取り組みを工夫し、学校全体で取り組む。また、家庭や関係機関と連携し、人権感覚の育成に努める。 ・今後とも地域のニーズに応じた研修を実施しHP等で紹介し、各学校等のニーズに応えセンター的機能の充実を一層図りたい。 【重点目標4】 ・体育館への渡り廊下の修繕、自校のスクールバス導入は、児童生徒の実態やニーズを把握し、引き続き県に要望していく。 ・児童生徒が将来地域で生き生きと生活していくために、地域の施設等での主体的活動の充実、交流及び共同学習の充実、地域の自治体と連携した防災対策を計画的に進める。 【その他】 ・会議の精選、業務の効率化については、今後、県の社会福祉協議会などの専門的人材を活用した研修を実施し、改善を図る。 ・スマートフォン、ipadの使用については、全学部で使い方等について卒業後を見据えた指導の徹底を図るとともに家庭での使い方について保護者にも指導の徹底を伝えていく。
		児童生徒のニーズ及び学校の課題解決を図るため校外研修の積極的な活用を図る。	3.3	3.6	「新学習指導要領における社会に開かれた教育課程」「地域・社会で主体的に生きる力を育む指導」「新学習指導要領における自立活動の指導」「防災教育」について、県外の研究公開や学校視察に参加し、新しい情報を全職員で共有した。	3.4	
		肢体不自由教育の専門性の向上を図る。	3.2	3.5	肢体不自由教育に関しては、専門の関係機関（病院・療育等）と連携し、専門性の向上に努めた。また、九州地区肢体不自由研究大会やその他の研究公開に参加し、全職員で情報の共有の機会を設けた。さらに自立活動において外部講師に定期的に入っていたきより専門的な支援の向上に努めた。	3.4	
重点目標3	地域・保護者から信頼される学校づくり	児童生徒の人権を大切に教育の充実に努める。	3.3	3.5	人権教育に関しては、年度当初に人権教育全体計画で全職員で共通理解を図り、前教育活動で取り組んだ。特に7月の人権週間には、生徒会からの標語の募集や紹介、全校集会で人権担当職員による「いのちの教育」の実践、各学級での実態に応じた取組を行い、意識を高めることができた。	3.4	
		地域・保護者への教育活動の積極的な啓発に努める。	3.2	3.4	コーディネーターを中心に関係機関との連携に努めた。また、地域の幼保・小中学校、高等学校からの要請相談、職員や生徒向けの講話も実施した。さらに、地域の人々や学校を対象にニーズに応じた外部講師による研修を実施した。今後も継続して、センター的機能の充実に努めていきたい。	3.4	
重点目標4	長期的展た教育環境の整備	児童生徒が安全・安心に活動できる環境づくりに努める。	3.2	3.4	本年度は校務分掌部に防災安全部を設け、危機管理体制の充実を図った。大震災を想定した緊急時対応訓練、児童生徒引き渡し訓練、医療的ケア対象の児童生徒の緊急時対応訓練を実施した。施設工事としては、医療的ケア室の改修工事、体育館への渡り廊下の修繕工事を実施した。今後も安全・安心環境づくりに努めたい。今後は、地域と連携した危機管理体制を確立していきたい。	3.4	
		医療的ケアの校内システムの充実に努める。	3.1	3.4		3.4	